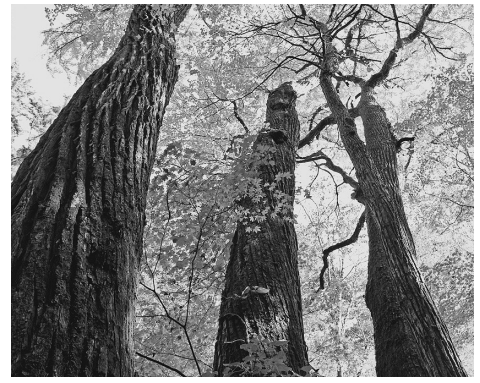




三本桂

森の巨人たち100選に選定



三本桂

眠っていた半年にわたる単色を一挙に紫赤色の新葉で染め、甘酸っぱい春の芳香を放つのは桂です。高さ20から30m、太さ1から2mとなる桂は置戸でよく見えます。鹿の子沢名勝案内板から虹の滝、四阿を経て400m上った地点に「誰が姉やら妹やら」の三本桂があります。平成12年、林野庁は森林の価値を広く伝える一環として、全国100カ所から巨樹巨木を選んで指定し、この三本桂が選定されました。根元が株立ちにより三本の大本が生立しているが、樹高28m、幹回り300cm、胸高直径96cm、推定年齢200から299年というのが公式発表。4月決定以来町では8月に「三本桂保護協議会」の設立総会を開きましたが、席上網走中部森林管理署長は「国民にひらかれた国有林を育成する一環として、国有林内にある巨樹・巨木を森の巨人たち100選として選定し、個人の自主的な活動で保護していくことを目的に設定した」と述べ、町・観光協会・地区林協・流通連・ウッドハウスおけと・森林組合・商工会・農協の8団体の構成で前記の会を組織し、さっそく三本桂の保護柵を設置し、周辺整備を行い、標識などを

新設しました。巨樹・巨木として選定されたものは、道内に下川の七尺二しなど11本の巨木がありますが、関係する市町では「北海道巨樹・巨木サミット」を開いて地域づくりのための知恵を出しあっています。この第3回となる会合が置戸で行われました。約30人が三本桂を見学しサミットを記念して関係者らで三本桂横に記念の標柱を建てたあと、午後から公民館を会場にしてサミットが開かれ、参加自治体の発表後地元からは、木と人間ばん馬のつながり、木の素晴らしさとオケクラフトの関係などの発表がありました。町ではオケクラフト20周年記念事業と合わせて実施されたこともあり、自然の大切さを説く実践派のナチュラリストとして知られるC・W・ニコルの基調講演「森を育むもの」に、参加した330人は熱心に耳を傾けました。また、巨樹・巨木サミットと三本桂を記念して「THE桂展」を同時開催して森や木への関心をひきました。巨樹巨木の選定を受けた三本桂のある鹿の子沢は、格好の散策コースとして、春から秋にかけて訪れる人も大勢います。

(参照『続置戸町史』 ※文中人名敬称略)

新たに置戸町に
来た方を紹介する

みなさんこんにちは



なが お かつ え
長尾 勝恵さん

置戸高校教頭

【前任地は】平取高校
【出身は】岩手県生まれで小学2年まで清里町に
【趣味は】ピアノとバイオリン

【置戸町の印象】自然いっぱい、幼い頃を過ごした清里町を思い出します。

【皆さんへ一言】生徒は真面目で素直ないい子ばかりです。町民の皆さんには様々な面で助けていただいています。今後もよろしくお願ひします。



おく やま のり ふみ
奥山 徳文さん

役場施設整備課
建設係主任

【出身は】北見市生まれで札幌の専門学校を卒業
【ご家族は】妻と長男
【趣味は】海釣り

【なぜこの仕事に】北見市内の測量会社で働いていましたが、募集を知り、祖父母のいた幼い頃から縁のある置戸町で働きたいと思い応募しました。

【皆さんへ一言】11月から採用になりました。早く仕事を覚え皆さんのお役に立てるよう頑張ります。